

【目的】本研究の目的は、アメリカ家政学会誌の分析を通して、その研究動向を明らかにし、家政学の本質を明らかにすることである。本研究ではすでに、研究論文の内容構成に基づく分析によって各研究領域の研究動向・研究関心の推移を捕らえてきた。また、こうした個別的な（個々の研究者や組織による）研究動向が家政学という学問体系の中でどのような時代的・社会的ニーズに応えるものとして現象した結果であるのか、その要因を探る試みとして、家政学の定義にかかわる諸説、ならびに、学会組織としての活動の指針となる学会会則の目的条項表現の変遷について検討してきた。引き続き本報では、アメリカ家政学会年次大会の統一テーマを中心に、現象の要因となる時代的・社会的ニーズを学会組織としてどのように捕らえてきたのかを明らかにすることを研究の目的とした。

【方法】①学会発足から現在に至るまでの各年度における年次大会の開催有無・回数などを把握した。②開催された年次大会毎の統一テーマを把握した。③統一テーマ決定にいたる準備委員会などの報告、関係論文、年次大会結果報告に関わる学会誌掲載論文などから時代背景とテーマの趣旨を把握した。④時系列的に統一テーマの傾向を把握し、研究動向との関係を分析した。

【結果】年次大会が開催されなかった年次、2回開催された年次、統一テーマが設定されなかった年次などが明らかとなった。統一テーマについての研究プロジェクトが組まれたり、先にみた学会会則の目的条項表現の修正に統一テーマが具体的に反映されてきたことが明らかとなった。個別的な研究の中にも統一テーマに呼応するものが多くみられた。